

第5学年 算数科学習指導案

1 単元 割合（本時5／9）

2 本時の目標

全体と部分という関係をとらえ、比較量と割合から基準量を求めようとするができる。

（思考・判断・表現力等）

3 展開

段階	児童の活動	教師の活動
導入 (5)	1 問題文を読み、問題の意味を考える。 ・昨日、図書館を利用した人数を聞いている。 ・昨日の利用者を1とすると今日の利用者の人数の割合は1.6だ。 ・今日の人数の割合が1.6だから、今日の利用人数の方が多い。	<ul style="list-style-type: none"> ・人数と割合の関係性が捉えられるように、昨日と今日の図書館の利用者の線分図を提示する。 ・問題文に提示された数量と、くらべる量、もとにする量、割合の関係性が分かるようワードカードを線分図に貼り付ける。 ・前時の想起し、もとになる量を求める方法を見つけるための見通しをもてるようにノートを振り返るように促す。
課題 (2)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> もととなる量を分かりやすく求める方法を見つけよう </div>	
展開 (30)	3 表から今日の図書館利用者数と昨日の利用者数の割合を読み取り、昨日の図書館利用者の数を個人で求める。 4 図書室の昨日の利用者が何人いるのか話し合う。(チーム→全体) ・□の1.6倍が24だから式は $24 \div 1.6$ ・昨日の人数を1とすると増えた人数は $1.6 - 1$ で0.6増えている	<ul style="list-style-type: none"> ・昨日の利用者と今日の利用者の数の関係が分かるように関係図をかいてから立式するよう声をかける。 ・関係図や線分図をかくことが難しい児童には、関係図と線分図を配付し、割合と比べる量を書くよう伝える。 ・関係図や線分図と式を関連付け、くらべる量と、割合を確認して数量の関係を説明している児童を称賛する。 ・多様な考え方を共有できるように、机間指導しながら個々の考えを把握し、チーム内やチーム間の関わりを促す。 ・もとにする量を分かりやすく求めるために、線分図や関係図にくらべる量や割合を書くことを確認する。 ・発展的に考えることができるように、早くできた児童に、いろいろな方法でもとにする量の求め方を考えるよう伝える。
整理 (8)	5 練習問題を通して、もとにする量の求め方や意味の理解を深める。(個・チーム) ・今年の商品は去年の0.75倍だから去年の商品は $1200 \div 0.75$ で求められる。 去年の商品を1とすると $1 - 0.75$ で0.25だけ安くなっている。 6 本時の振り返りをする。 ・くらべる量や割合がはっきりするともとにする量が求めやすくなる。 ・何の何倍か図で表すと分かりやすくなる。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習に向かう態度と学習のめあての達成度について、座標軸で表すことができる振り返りシートを配布する。 ・「学んだこと」や「友達の考えとの比較」「疑問に思ったこと」などを書くように助言する。

4 評価

今日の図書室利用者が昨日の図書室利用者の何倍になっているか考えることで、割合の意味について理解を深め、もとにする量を分かりやすく求めようとするできたか。

（思考・判断・表現力等）